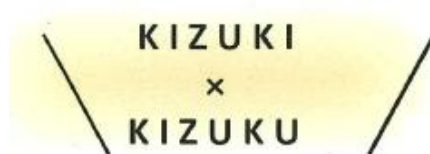


武蔵野市 中高生世代ワークショップ Teensムサカツ2021春

－実施報告書－

令和3年5月
武蔵野市



1. 事業の全体像

(1) 実施目的

- 中高生世代ワークショップ（Teensムサカツ）は、市の将来を担う中高生の意見を積極的に市政運営に反映するとともに、参加する中高生が課題を通して市の新たな魅力に気が付き、より市への関心を高めてもらうことを目的にした若者世代向けのワークショップです。
- Teensムサカツは、今後の地域の担い手として、中高生世代に対して幅広く市政に関心を持ってもらうとともに、主体的に地域づくりに参画してもらうことを目的に、通常の中高生ワークショップ等にみられる少人数でのワークショップではなく、幅広い中高生世代が参画するワークショップを実施しました。

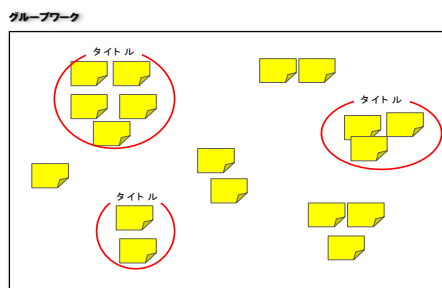
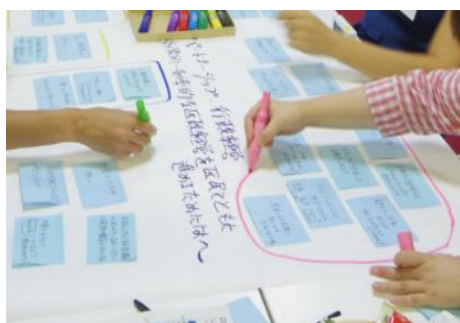


(2) プログラム概要

- 市内在住・在学の中高生世代（計26人※）が、対話（ワークショップ）を通して、想いやアイデアを練り上げながら、提言を行いました。（※）令和3年3月現在、小学6年生も含む。
- 対話は下記の3つのテーマについて行うこととしました。

（1）中高生の居場所 （2）地域とのつながり （3）環境にやさしいまち

- テーマごとに架空のモデルケースを設定し、そのモデルケースの子どもが幸せな状態について考えました。
- 1グループ5名程度の小グループの中では、各人が役割（進行役・書記等）を担うことで、自らが主体となって対話を行うことを重視しました。
- 各グループでの対話の流れは、下記のとおりです。
「①個人ワーク（自分の考えをまとめる）」→「②グループ内での意見紹介」→「③グループ内での対話」→「④グループ内でまとめ」→「⑤全体での発表・共有」
小さな単位でグループ対話を行うことによって、参加した中高生にとってより多くの発言機会を確保することを目指しました。
- 参加者だけではなく、事前に希望者を募り、10名が「中高生ファシリテーター」として、当日の進行管理を始め、ワークショップの企画・進行に関わりました。
ワークの全体の進行は中高生ファシリテーターのうち2名の全体ファシリテーターが行いました。他の中高生ファシリテーターが各グループに入り、個別ファシリテーターとしてグループの進行を行いました。



2. Teensムサカツ2021春 当日について

(1) 概要

- ①日時：令和3年3月29日（月） 午後1時30分から午後4時30分まで
- ②会場：武蔵野総合体育館 3階大会議室
- ③参加人数：計26名（内訳は下記のとおり）※学年は令和3年3月現在

	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小6	計
ファシリテーター	1	2	0	3	2	2	0	10
参加者	3	10	0	1	0	0	2	16
計	4	12	0	4	2	2	2	26

(2) 当日の様子

①アイスブレイク

- 参加者のアイスブレイクを目的に以心伝心ゲームを行いました。お題に対して思いついたことをグループ内で共有し、同じことを思いついた人が多いほど高得点となるグループ対抗戦です。初対面の人が多い中で、今後チームとして取り組んでいくことの機運が高まりました。

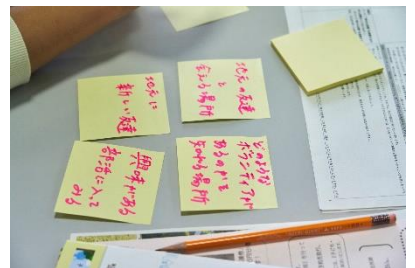
② 市からの情報提供

- 全体ファシリテーターや市職員から、ワークの流れや、テーマごとに設定されたモデルケースの詳細、武蔵野市の現状と各テーマに関する武蔵野市の取組みについてなど、対話を進めるうえで事前に知っておくといふ知識深めました。



③ 対話①

- 「あなたがモデルケースの子どもだったとしたら…“幸せな状態”ってどういう姿？」という問いに対して、個人ワーク、班内での意見共有を経て、班内で意見をまとめました。
参加者それぞれがモデルケースの立場になって考えることで、あらゆる視点での有意義な意見が出てきました。



④ 対話②

- 「そういう“幸せな状態”を実現するために必要なことは？」という問いに対して、個人ワーク、班内での意見共有を経て、班内で意見をまとめました。
「誰が」「どのような取組み」をする必要があるか？ そのためには「どのような場所」が必要か？ という視点を大切にしながら話し合いを行うことで、具体的な案や意見が沢山生まれました。



⑤ 対話③

- 「いいね！と思った取組み・アイデアをブラッシュアップしよう」という問いに対して、個人ワークを経て、グループでの最終的な意見をまとめました。対話②の意見をブラッシュアップし、まち（地域・市）ができること、自分たちができることは何か、もっとよい取組み・アイデアにするには何が必要か、考えました。



⑥ 全体発表（市長への政策提言）

- 対話①～③で出たグループの意見を、市長に向けての「政策提言」という形で発表を行いました。中高生世代の立場だからこそその自由な発想で、「武蔵野市を〇〇なまちにしたい！」という想いがとても伝わる貴重な意見ばかりでした。



⑦ 市長からの講評

- 松下市長から講評がありました。各グループの意見から、これからの武蔵野市を創るためのヒントや気づきを得ることができたというお話がありました。今後も中高生世代の目線で積極的に意見を挙げてほしいという想いを参加者へ伝えました。



～番外編 参加者の皆さんからの感想～

- 自分自身の居場所について改めて考えることができた。また、イベントにも参加してみたいと思った。
- 学校の友達とはできないような話し合いができて楽しかった。違う学年の人とも意見が交換できてよかったと思う。私たちの班ではチラシの案が出たので、もっとそれぞれがチラシを作ったりして、具体的にしていけると良いと思った！
- 「同世代の人と話し合う」という空間は学校くらいにしかないので、他校の人とも話せてとても楽しかった。
- 「居場所」という具体的なものがある程度決められているので分かりやすかった一方で、「居場所」から深く掘り進めていくことはとても難しかったです。
- もっと具体的なテーマ（例えば、こういう施設が欲しい、こういうイベントが欲しい、この施設はもっとこうなってほしい等）だともっとやりやすいと思う。
- 難しかったですけど、考えるかいがあり、中高生と地域のつながりは、未来の中高生にも関わる重要なことなので、これからも議論をしていきたいと思います。

3. 提言

(1) 提言の内容

■ 対話①～③の議論を踏まえて、各グループで「提言書」（まとめシート）を下記の通り作成しました。

発表シートイメージ

テーマ	
こうなったら 幸せだなあ！	① ○○○が、○○できるようなことが大切
こうなったら 幸せだなあ！	① ○○○が、○○する！ ② ○○○が、○○する！ ③ ○○○が、○○する！

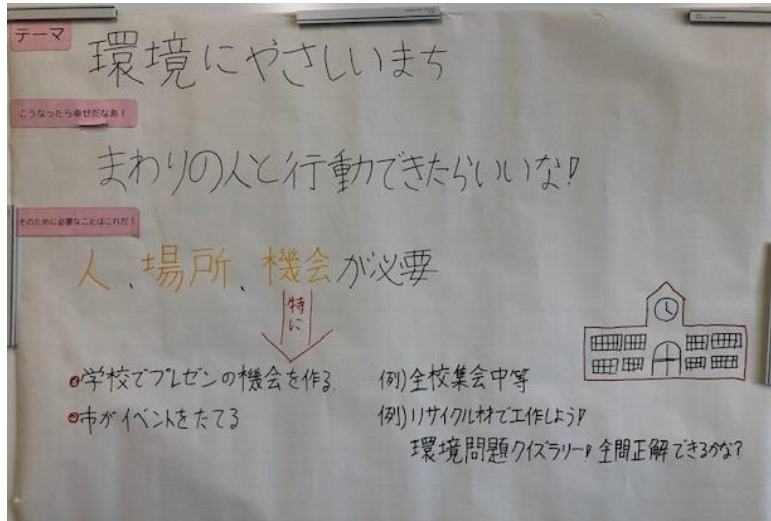
対話①の
成果を書く

対話②
対話③の
成果を書く

テーマ：環境にやさしいまち

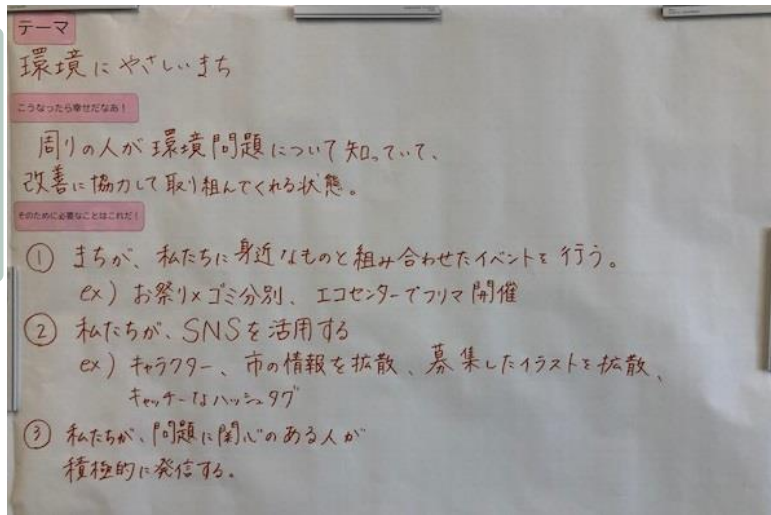
<発表時のコメント>

1
グループ



- モデルケースの子の幸せになるために、「まわりの人と行動できたらいいな！」と考えた。
- モデルケースの子が、環境に関する活動を周囲の人を巻き込んで進めるためには「人」と「場所」と「機会」が必要であると考えた。
- この中でも、特に、楽しく行うことができる「機会」を重視し、掘り進めた。
- 学校で、生徒と一緒に考えることができる全校集会中でのプレゼンの場や、市民と一緒に環境について考えるための市主催のイベントができると良いのではないかな。

2
グループ



- モデルケースの子の幸せな状態は「周りの人が環境問題について知っていて、かつ改善に協力して取り組んでくれる状態」であると考えた。
- その際に大切になるのは3つ。
- 一つ目は、直接、私たちに関係のあるような身近な話題とつながるイベントをまちが実施すること。
- 二つ目は、私たちが、SNSなどを通して、みんなが興味を持てるような情報発信を行うこと。
- また、特に中高生が出来ることは三つ目の、「積極的に発信すること」。SNSなどは、顔の見えない関係だからこそ、積極的に伝えていくこともできる。ムーブメントを広げていく可能性があると思う。

テーマ：地域とのつながり

テーマ 地域とのつながり

こうなったら幸せだなあ！

自分が、興味のあることをさばし、気軽にボランティアに参加したり、
気軽に場所（施設）に足を運ぶ。

そのために必要なことはこれだ！

市が
施設（勉強ができた、地域のひとと交流）

ボランティア

- ・〇〇教室
- ・お祭り
- ・1週間ぐらいの期間で行うイベント

そのためには...?

市が
施設（勉強ができた、地域のひとと交流）

ボランティア

〇〇教室
お祭り
1週間ぐらいの期間で行うイベント

市が
施設（勉強ができた、地域のひとと交流）

ボランティア

〇〇教室
お祭り
1週間ぐらいの期間で行うイベント

市が
施設（勉強ができた、地域のひとと交流）

ボランティア

〇〇教室
お祭り
1週間ぐらいの期間で行うイベント

市が
施設（勉強ができた、地域のひとと交流）

ボランティア

〇〇教室
お祭り
1週間ぐらいの期間で行うイベント

市が
施設（勉強ができた、地域のひとと交流）

ボランティア

〇〇教室
お祭り
1週間ぐらいの期間で行うイベント

市が
施設（勉強ができた、地域のひとと交流）

ボランティア

〇〇教室
お祭り
1週間ぐらいの期間で行うイベント

自分が
情報も
チェック！

テーマ：中高生の居場所

テーマ 中高生の居場所

こうなったら幸せだなあ！

自分のしたいことを探すために SNS を適度に使い、
学校外の友達と話したり、理解してもらう。

そのために必要なことはこれだ！

- ① 中高生が提案する
- ② 市役所が企画する
- ③ 市役所が発信する
- ④ 中高生が参加する

中高生が提案する

市役所が企画する

市役所が発信する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

中高生が参加する

様々な人が交流できる場所を作ろう！
（スポーツ、講演会、なんでも会、アニメやまんが、謎々など）

- モデルケースの子の幸せな状態は「自分が興味のあることを探し、気軽に組みめる状態」であると考えた。
- そのためには、市が地域とのつながりづくりのための施設を作ることが必要と考えた。
- 施設では、沢山のボランティアのメニューを作り、興味のある分野に参加できるような機会があると良い。
- 期間が長めのイベントのボランティアをすることで、より密な関係作りができると思う。
- その情報を知るためには、SNSなどを活用した情報発信や、SNSを見ない人に向けた、広報物の作成（名刺サイズのチラシ）を検討出来たら良い。
- 自分自身も積極的に情報を得る姿勢が大切である。

- モデルケースの子の幸せな状態は「自分のしたいことを探すために、SNSを適度に使い、学校外の人と話したり、理解してもらっている状態」である。
- そのためには、「様々な人が自分の好きな分野について、交流できる場所を作る」ことが必要であると考えた。
- 必要な取り組みは中高生がコミセンの提案箱などを通して、提案すること。さらに市が、提案に対して、中高生の行きやすい場所（武蔵野プレイスなど）にて、企画をすること。また、市がカラーポスターや写真付きを用いて、身近なLINEなどのツールでの発信をすること。
- 何よりも中高生が友達と積極的に参加することが必要！

テーマ 中高生の居場所

こうなったら幸せだなあ！

息抜きができる。夢を見つけられる場所。自分らしくいられる。
不安が減る。

そのために必要なことはこれだ！

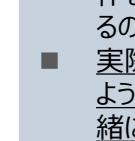
- ① 悩みを気軽に話せる機会

色々な事を
体験
聞く
話す

HP
アプリ
チラシ

食事

気軽に見れるように



- モデルケースの子の幸せな状態は「息抜きができる。夢を見つけられる場所であること。自分らしくいられる。不安が減ること」。
- そのためには、色々な体験や話を聞く機会を得たり、悩みを気軽に話すための場所が必要と考えた。
- 集まる場所はインターネット上でもよい。わかりやすいホームページやアプリを作ったり、後に残りやすいチラシなどの紙媒体を作ること、色々な人が気軽に参加できるのではないかな。
- 実際の場所を作る場合は、行きたくなるような要素（プロの人を呼ぶ、ご飯を一緒に食べるなど）を加えると良いのではないかな。

参考資料（モデルケース）

テーマ「環境にやさしいまち」

●あなたは？

中学3年男子 武蔵野市在住、市立中学校に通っている

●一緒に住んでるのは？

父、母、兄（高校3年）

●将来の夢は？

環境省の職員か、再生可能エネルギー関係の仕事

●今感じていることは？

4月から高校生になるので将来の仕事について考えたりしている。自由研究で調べたのをきっかけに、環境問題に興味があるので、何か地球環境を守るための仕事に関わりたくて漠然と考えている。

★悩んでいる、困っていることは？

普段からごみの分別やレジ袋をもらわないなど環境を守るためにできることをやっているが、友達はあまり気にしていないのが気になる。地球環境を守るためには一人ひとりの取り組みが大事だということをみんなに知ってもらいたいが、一人で言っても聞いてもらえないし、馬鹿にされそうで怖い。みんなに環境問題に関心をもってもらって、行動してもらうにはどうしたらいいんだろうか。

テーマ「地域とのつながり」

●あなたは？

中学2年男子 武蔵野市在住、市外の私立中高一貫校に通っている

●一緒に住んでるのは？

父、母

●将来の夢は？

とくに考えていない。大学で勉強しているうちに見つかるかもと思っている。

●今感じていることは？

市外の学校に通っていて、入学後1年経つが学校にはあまり馴染めていないと感じている。学校の強制で入っている部活(天文部)の活動内容にも興味をもてない。

★悩んでいる、困っていることは？

小学校までは市立の学校に通っていたが、進学して市外の私立中学に通うようになったため、小学校まで仲の良かった地元の友達との交流が少なくなった。休日にその友達と参加できる地域活動・ボランティア等があればいいのと思っている。また、学校以外で自分が活躍できる場が欲しい

テーマ「中高生の居場所」

●あなたは？

高校2年女子 武蔵野市在住、市内の私立高校に通っている

●一緒に住んでるのは？

父、母、弟(中学2年)、祖母

●将来の夢は？

とくに考えていない。大学で勉強しているうちに見つかるかもと思っている。

●今感じていることは？

文化祭が終わり、ダンス部を引退したばかり。周りの友達は一気に受験勉強ムードに包まれている子と、推薦組で遊んでいる子とに分かれている。自分は受験組だけど、うまく切り替えられなくて、無気力ムード。クラスの中でも浮いているように感じて最近では学校に行きたくない。

★悩んでいる、困っていることは？

SNSでの友達とのやり取りに疲れている。周りが「キラキラした自分」をSNSで発信していて、自分もそうやってアピールすることが負担になっている。SNSでのやり取りの辛さを家族は理解できないので、自分の気持ちに適当に折り合いをつけてやり過ごしている。ダンス部の友達とも距離を感じ始めていてこのままだと不登校になりそうで心配。本音で悩みを話せる場所や友達が欲しい

**武蔵野市 中高生世代ワークショップ
Teensムサカツ2021春
実施報告書**

令和3年5月

武蔵野市 子ども家庭部 子ども子育て支援課

**東京都武蔵野市緑町2-2-28
TEL 0422-60-1851**